

農水省支離滅裂 開門に障害なし

二二日午後五時から、公共事業チエック議員の会(鳩山由紀夫幹事長、保坂展人事務局長)主催で、有明海の再生のための諫早干拓潮受堤防の開門に向けたヒアリングが行われた。ヒアリングには、与党自民党議員を含む約三〇名の衆参国會議員(一部秘書)が参加した。ここ数次のヒアリングに与党自民党からも複数の国會議員が参加している。

このヒアリングにおいて、諫早湾干拓潮受堤防を開門できないとの農水省の主張が科学的根拠のない非合理的なものであることが明白となった。

農水省は、従来、開門すれば毎秒一・六mを超える早い流速により底泥の巻上げなどが起こり、新たな漁業被害や、排水門の安全性の問題が生じるとして、開門を拒否してきた。

しかし、この日のヒアリングにおいて、農水省が二〇〇二年(平成一四年)に実施した短期開門調査において、少なくとも平均毎秒三・八mを超える早い流速が生じており、それにもかかわらず、さしたる影響がなかったことが分かり、開門を拒否

する農水省の主張に何ら合理性がないことが明らかとなった。

—明らかになったこと—

- 開門すれば有明海は良くなる
- 開門しても問題は生じない
- 調整池に代わる代替水源は確保できる

農水省 開門被害偽装？

短期開門に伴う被害偽装の疑い濃厚

農水省は、開門により漁業被害が生じるとし開門を拒否している。その根拠として、短期開門調査時において、諫早湾内のアサリ漁業等に被害が生じたとしており、アサリが獲れたと開門の効果を訴える漁業者の実感

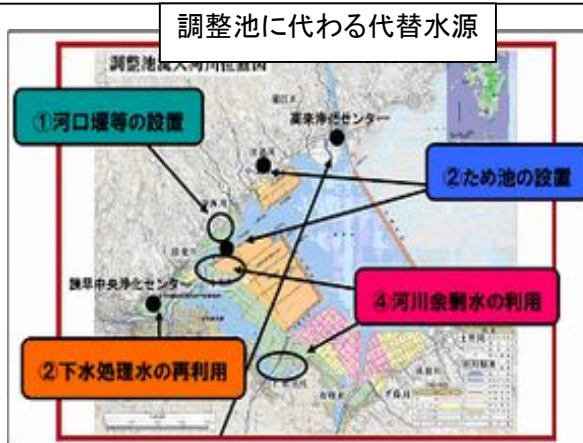
とのズレが問題になっている。松永秀利(長崎県小長井)は、被害が出ようが出まいが、被害が出たこととして補償を出す「偽装」を持ちかけられたことを明らかにした。開門拒否のため被害を偽装した疑いが濃厚となっている。

よみがえれ！有明海訴訟弁護団(後藤富和)発行
092-894-1781
090-9602-0700

周辺農地からも不満の声続出

干拓地農業との格差歴然！

代替水源は確保できる



犬塚直史議員(民主・参・長崎)によると、干拓地で収穫されたレタスの出荷が大量にあつたため価格が暴落し、干拓地周辺の農家から、「どうして補助も受けずにコツコツと農業をやっていた我々が被害を受けなければならぬのか」との不満の声が続出していることが明らかとなった。この問題は、干拓工事開始当初から市民団体などから指摘されていたものであり、予め予測されていた問題を放置したまま営農を開始した農水省の責任が問われるだろう。

明日の飯も食えん

漁民 怒りの訴え

有明海の漁業者松永秀利(長崎県小長井漁協)は、農水省に対して、農水省からは干拓が終われば漁業は継続できるとの説明だったが、いまだに漁業だけでは生計を立てることができない。農水省には責任を取ってきちんと開門して海を元に戻して欲しい。明日の飯も食えんという状況が続いている。このままだと海も漁民も死んでしまうと、漁民が置かれている窮状を訴えた。

